

巨樹・巨木シリーズ29 岐阜県-3

細田木材工業株式会社
顧問 細田安治

今号の巨樹・巨木シリーズ29は、巨樹探索者U氏の幅広い資料提供により岐阜県のご紹介を続けることとした。岐阜県-1で「オールスギ」としたが物足らずで、岐阜県-2でもスギを取り上げた。しかし知れば知るほどスギの魅力に引き込まれてしまい、岐阜県-3も「オールスギ」とさせていただく。スギの世界は実に奥深い。これはまだまだ入り口かもしれない。

写真番号-1 樹番号28 長嶺の大スギ

樹齢900年以上、樹周9.5m、樹高50m 本巣市根尾長嶺 素盞鳴神社
内 本巣市指定天然記念物

*本巣市教育委員会案内板より一部抜粋

この大スギは根尾地域内の各神社の神木の内最大の巨木とされる。

このスギがある素盞鳴神社は、その名の通り素盞鳴命を祭神とする神社である。創立年代については不明とされているが、現在15枚の棟札が残されており、わずかな手掛けりを残している。最も古いものは永禄7年(1564)のものであり、古くから鎮座していたことがうかがえる。

＜筆者のつぶやき＞

このスギは根元から二股に分かれ、しかも脚部はまるで人が足を踏ん張り、かかとを付け、膝を真っすぐに伸ばしているように見える。太ももではなく、代わりに折れた枝が飛び出し、まるで人間サマそっくりのスギである。太ももから上部は二又に分かれている。脚の部分はゴツゴツしており、鍛えぬいた強そうな男の歴史あるいは生きる労苦の跡が刻まれているようにも見えた。

本巣市の説明板によれば、神社の祭神は素盞鳴命(すさのおのみこと)と記されている。となれば、このスギの巨樹は素盞鳴命の生まれ変わりと見えなくもない。

正にこのスギは、様々なことを連想させる巨樹である。

このような個性の強い樹を見たのは初めての経験である。このスギの写真を提供してくれた探索者U氏に改めて感謝したい。この稿執筆中のこの時点で、近所に住むU氏に偶然にも出会った。「長嶺の大スギ」に感動した旨を告げると、彼もにこやかに応じ、楽しい会話に発展した。このタイミングでU氏と出会ったときの感動を言葉にすることはできないが、思いが通じたのかもしれない。しかし不思議でならない。

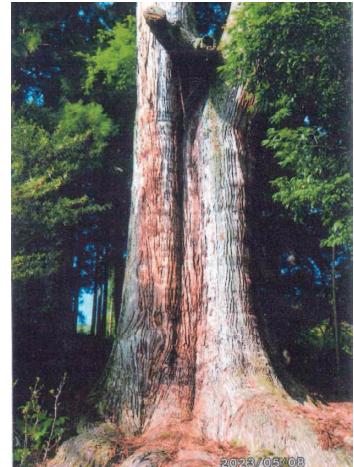


写真1 長嶺の大スギ

写真番号-2 樹番号31 伊富岐神社の大スギ

樹齢300年以上、樹周6.6m 樹高30m 根元の幹周囲 9.6m 不破郡垂井町岩手沢伊吹 岐阜県指定天然記念物

この大スギは伊富岐神社境内の社殿の左側にそびえ立っている。

*垂井町ホームページより

伊富岐神社は岐阜県の西部に位置する不破郡垂井町の西北部の古戦場関ヶ原の隣に位置に隣接する山林地帯、岩手地区は竹中半兵衛重治公の墓所や菩提山城跡、竹中陣屋跡の歴史ある地域にある。

〈筆者のつぶやき〉

この大スギは、根元をしっかりと固め、まっすぐに伸びている美しい立ち姿だ。よく観察すると3本の幹が重なり固まって伸びている。後方に見える神社の屋根を越える高さになるところから3本に分かれるが、やや開き気味なれど、そのままの立ち位置で曲がったり大きく開いたりすることなくほぼ直立して伸びている珍しい巨樹だ。

この地は、天下分け目の関ヶ原の戦いに登場した竹中半兵衛ゆかりの地だ。竹中半兵衛とはご存じ戦国時代の軍師で、黒田官兵衛とともに豊臣秀吉の天下統一を支えた「両兵衛」の一人だ。美濃国(岐阜県)出身、斎藤龍興^{なつおき}に仕えていたが、その後、織田信長、豊臣秀吉の参謀として活躍した。菩提寺も垂井町岩手の曹洞宗の禅幢寺^{ぜんとうじ}である。

この地域は天下分け目の戦いの舞台となり、数多^{あまた}の武将が輩出した地域でもある。次の展開としてこの大スギを改めて見ると、このスギの巨樹は真っすぐに伸びて、途中で3つになり支え合う樹相は、戦国参謀の竹中半兵衛と黒田官兵衛が両脇からしっかりと、豊臣秀吉を支える両兵衛の姿と見えなくもない。伊富岐神社の大スギは、中心の幹に豊臣秀吉、左右には竹中半兵衛、黒田官兵衛が支え、秀吉の天下統一を担った歴史を刻んでいるとの思いに至った。

こうしてみると、巨樹・巨木は人の歴史を眺めつつ、そして刻みつつ後世にしっかりと伝える役目を果たしているのではないか。人の歴史と樹木の歴史は絡み合っている。歴史ある樹木を大切にしなければならない。

写真番号-3 樹番号36 神淵神社の大スギ

樹齢800年、樹周10m、樹高43m 賀茂郡七宗町神淵

国指定天然記念物

*岐阜県ホームページより

七宗町の神淵神社境内にあるこの大スギは、根元の幹周囲10.0m、樹高約43mの巨樹である。明治43年(1910)9月に起こった土石流によって根元が1mも埋まったが、現在も旺盛な樹勢をみせている。

〈筆者のつぶやき〉

樹齢800年と表示にあるが、長寿の木とは思えないほどに直立し、しか

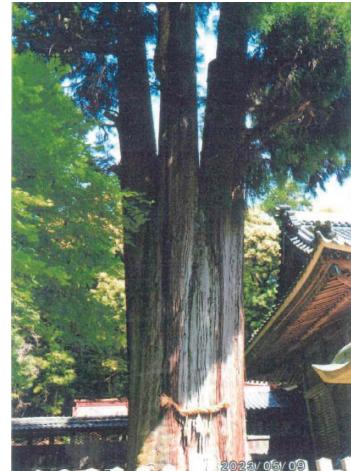


写真2 伊富岐神社の大スギ

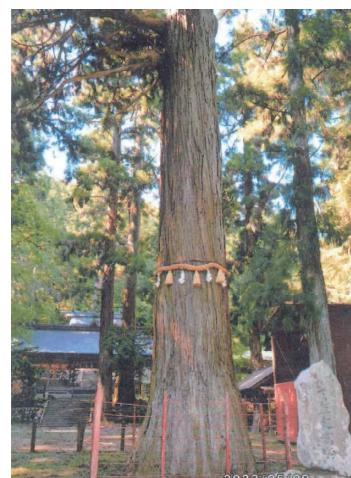


写真3 神淵神社の大スギ

も樹皮肌は青年のような赤みを帯び生き生きとしてあたりを睥睨^{へいげい}している。神社の参道にあるこの木は、周囲を針金のバリケードで固められ、根元を保護されている。またご神木としてしめ縄をしっかりと廻し、御幣で飾られている。「この木がいかに大事にされているか」この写真を見ればひと目でわかるほどである。

樹齢800年を経てもなおも青年の如き樹相を保てているのは、何事もメンテナンスが大事、長寿は手入れ次第との印象を受けた。人もまた同じ、メンテナンスあればこそと、この長寿のスギを眺めて感じた次第である。

写真番号-4 樹番号37 大森神社の大スギ

樹齢300年以上 樹周9.4m、樹高35m 賀茂郡白川町白山宮ヶ洞

岐阜県指定天然記念物

*案内板より

かつて、大森神社の社域には数多くのスギの大木が茂っていた。昭和34年の伊勢湾台風によってほとんどの大木が失われた。幸いこの大スギは、難を逃れ、今なお樹勢旺盛である。

＜筆者のつぶやき＞

探索者U氏の記録によるとこの撮影は、5月8日15時45分とあるのだが、5月の16時前は、山国岐阜とはいえ、まだおひさまは高く陽ざしが強い時間と推測した。スギの巨樹に強烈な夕方の太陽が照りつけ大樹の根元を浮き彫りにしているこの写真はなかなか素晴らしい。地球の自転により太陽は瞬く間に、つまり分単位で日差しを変えていく状況下で撮影するのは実に難しいからである。ところがU氏のこの写真は大樹の特徴を見事にとらえている。力強い根元はしっかりと大地を掴み揺るぐことなく大樹を支えている。

前述の案内板にある伊勢湾台風をものともせず生き残ったとのことだが、この根元をみて「さもありなん」と納得した。



写真4 大森神社の大スギ

写真番号-5 樹番号41 大船神社の弁慶スギ

樹齢800年 樹周13.6m 樹高40m 恵那市上矢作町 岐阜県指定天然記念物

*岐阜県ホームページより

大船神社は標高1,060mの山頂近くにあり、境内にスギの巨樹が数本ある。恵那郡史には、「大船神社の傍に杉樹の数本がある。そのうち最大なるものは十かかえに余る。文治の昔、義経主従が奥州藩に向うときこの山に詣で弁慶が一巻の祈願書を捧げて、この願い空しからずば、この杉生茂らんとて杉枝を地にさして去った。これが繁茂して今に残ると伝えられる。あるいは日く、大船寺の僧、弁慶の植えるところとある。」



写真5 大船神社の弁慶スギ

＜筆者のつぶやき＞

U氏の探索は5月10日正午すぎの12時15分にこの弁慶スギを撮影している。彼は実に細かく、しかも正確に自らの足跡を記録しており、誰にでもできることではない。「記録は正確を期す」とするU氏の行動に、改めて感銘を受けた。

さて弁慶スギの生息地の標高1,060m付近とあるがスギの巨木が高地に棲息し、しかも樹齢800年の巨樹となるのか？しかし嘘ではないだろう。スギが高地にも棲息でき、しかも800年も永らえたという事実は初めて知った。巨樹であり長寿の樹には、樹そのものに長い歴史と、その樹ならではの個性を持つ。こういう発見も楽しいことである。

源義経と武藏坊弁慶の逸話にある五条の大橋での出会い、安宅の関で義経を打ち据え、衣川の戦いで義経の盾となり無数の矢を受けて立往生死した武藏坊弁慶と、本稿の大船神社のスギを蘇らせた弁慶とはイメージが異なるが、こういう一面も併せもっていたということだろう。

写真番号-6、7 樹番号36.38 大山白山神社の大スギ(女夫スギ)

樹齢推定700年 幹周囲11.5m 樹高41m 賀茂郡白川町大山水戸野 国指定天然記念物

*岐阜県ホームページより抜粋

大山白山神社は海拔862mの山上にあり、神社境内の本殿に向かって左側にこの大スギがある。樹勢きわめて旺盛である。神社境内には、スギの大木が300本以上あり、見事な社叢をなしている。1959年の伊勢湾台風により社殿や多くの樹木が被害を受けたが、この大スギは難を免れて現在も雄大な姿を見せて いる。

＜筆者のつぶやき＞

2本のスギが寄り添うように立ち上がり、途中で幹が分かれていくという大変珍しい形のスギである。地元ではこの2本を仲の良い夫婦のようだ大変珍しいと、名づけて「女夫スギ」と称している。どちらが女・女性か、夫・男性か定かではないが、この写真を見る限り写真6が女性のようにすらりとしているように思える。こちらが女性であれば写真7が夫、きりりとした男性ではないか。この見方からすれば、なるほど、写真6は根が逞しく地面の土と岩を掴み、幹は荒々しく上に伸びている。家長として子孫を産み育てる女性にふさわしく見える。

やや登りの後背地には、細いが伸びの良いスギ林を従えている写真7のスギは、家族にたとえれば、家長の威厳のある巨木と見ることもできる。

されど後背の木は子にしては細すぎるではないか。とすれば孫木とも言えないこともない。こうしてどんどん想像を膨らましてみるのも面白いものだ。巨樹・巨木シリーズはますます楽しくなってきた。続く

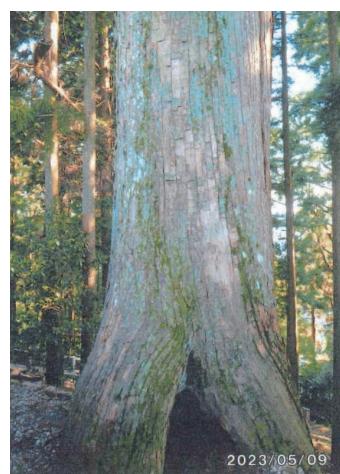


写真6 大山白山神社の大スギ(女夫スギ) 2023/05/09